

第七章 國務長官「ブライアン」ノ平和提案ト加州問題

第一節 「ブライアン」ノ平和提案

一九一三年四月二十四日國務長官「ブライアン」ハ駐米各國代表者一同ヲ招キ豫テ抱懷セル國際平和維持ニ關スル一考案新ニ大統領「ウイルソン」ノ同意ヲ得タル趣ヲ以テ其綱領書ヲ各代表者ニ交付シ本國政府ニ報告シテ其好意的考慮ヲ促サムコトヲ冀望セリ綱領書ノ要旨ハ締約國間ニ發生スヘキ紛争ニシテ外交的手段ニヨリ解決スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ其紛争ノ性質如何ヲ問ハス之ヲ締約國間ニ組織セラルル國際審查委員會ノ審查ニ附シ且締約國ハ右委員會ノ報告書ノ提出セラルルマテハ宣戰又ハ開戰セサルヘキコトヲ約セムトスルニアリ（附屬書第五十三號）尙國際審查委員會ノ組織、審查報告書提出期間、審查中當事國ノ義務ニ關シ其後米國政府ハ各國ニ對シ具體的提案ヲ爲セリ（附屬書第五十四號）

第二節 平和提案ニ對スル帝國政府ノ態度ト加州問題

國務長官ノ考案ニ對シテハ帝國政府ハ其崇高ナル趣旨ト重要ナル目的トヲ十分ニ認識シ慎重考量

ヲ加ヘタルモ當時恰モ加州問題勃發シ日米兩國間ニ交渉進行中ナリシヲ以テ帝國政府ニ於テ意見ヲ發表センカ内外ニ於テ兩者ヲ結ヒ附ケ誤解ヲ惹起スル虞アリトノ見解ヨリ暫ク回答スルヲ得ナル立場ニアル旨同年六月二日珍田大使ヲシテ國務長官ニ通告セシメタルニ長官ハ我立場ヲ篤ト了承セリ

然ルニ爾來加州問題モ既述ノ如ク幾多ノ曲折ヲ經翌一九一四年九月ニ至リテハ右回答トハ稍趣ヲ異ニセルト同時ニ米國政府ノ提案ハ豫期以上ニ各國トノ交渉進捗セルヲ以テ帝國政府ニ於テモ右提案ノ商議ニ應スヘキヤ否ヤニ付篤ト考慮ヲ加フルコトニ決シ同月右ニ關スル珍田大使ノ意見ヲ徵スルコトトセリ同大使ハ左記ノ通從來該案ニ對スル帝國政府ノ立場カ加州問題ノ解決ヲ先決條件トセルノ事實ニ鑑ミ同問題ノ解決ヲ見サル際ニ此態度ヲ一變スルノ不得策ナルヲ述ヘ本問題ノ一段落ヲ告ケサル間ハ飽クマテ一般平和條約提案ノ商議ヲ避クヘキコトヲ上申スル所アリタリ即チ加州問題ト一般平和條約トノ關係ニ關スル在米珍田大使ノ意見次ノ如シ

(一) 帝國政府ニ於テ該問題ヲ以テ國家ノ體面ニ關スル問題ト爲シ其解決ヲ求メントスルノ方針ナル以上本協約ノ締結ハ世間ノ誤解ヲ招ク虞アルコト毫モ從來ト異ナラス且我ニ於テ從來ノ態度ヲ維持スルトキハ本條約締結ニ對スル大統領殊ニ國務長官ノ熱誠ヲ利用シ多少加州問題解決ニ

資スル機會ナキニアラサルヘシ

(二) 假ニ本條約ノ豫想スル國際審査委員會ノ審査ニヨリ加州問題ヲ解決セントスルニ於テハ本條約締結ハ理由アルカ如キモ右ハ外交手段ヲ盡シタル後ニ於テ爲スモ晚カラサルヘシ

然ルニ帝國政府ノ見解ニ於テハ該案ニ對スル從來ノ態度ヲ維持スルモ加州問題ノ解決ニ資スル所歎ク又米國政府ヨリ屢次本件提案ニ應セムコトヲ希望シ來レルニ對シテモ適當ナル拒絶ノ理由ニ乏シク且日英同盟ノ關係モアリ此際右提案ニ應シテ商議ヲ開始スルコト時宜ニ適スルモノナリト認メタルモ尙一應珍田大使ニ對シ右商議開始ヲ特ニ不利益トナスノ事情アリヤ否ヤ等ノ點ニ付重ネテ意見ヲ徵スル所アリタルニ同大使ハ更ニ此際右商議ニ應諾スルハ此種條約ノ效力ヲ過信スル米國ニ於ケル排日行動ニ惡影響ヲ及ホス虞アリトシテ右條約締結ノ今日ノ情勢ニ應スル所以ニアラルコトヲ答申セリ仍テ政府ニ於テハ珍田大使ノ意見モアリ再ヒ考量ノ結果暫ク本件條約ノ締結ヲ見合スコトトセリ

其後同年十一月三日米國大使ハ加藤外務大臣ヲ來訪會談ノ序ヲ以テ一般平和條約ハ既ニ英佛露等ノ諸國モ調印シ一等國ニテ加入セサルハ日本ト獨逸ノミナリト述ヘタルニ對シ加藤大臣ハ同案加入問題ハ目下考究中ナリト答ヘタルカ當時加州州會ニ於テ再ヒ排日法案ノ提出アルヤモ知レサル

形勢ナリシヲ以テ米國ト本件條約ヲ締結スルコトハ大ニ慎重ノ態度ヲ執ルノ要アリト認メ本件ニ
對シ何等措置ヲ執ルヲ避ケタリ翌一九一五年三月二十九日米國大使來省ノ際モ同様ノ談話アリタ
ルカ加藤外務大臣ハ加州土地法問題等ノ當今ノ如キ狀態ニアル間ハ同條約ニ參加スルコトハ如何
ナランカト考へ居レリト述ヘタリ

第八章 一九一七年米國移民法制定經緯

第一節 一九一七年移民法制定ニ至ル迄ノ一般的情勢

一九〇七年制定舊米國移民法ヲ改正スルノ目的ヲ以テ米國議會ニ提出セラレタル一般的移民法案
ハ枚舉ニ違アラサルモ其中主要ナルモノハ先ツ一九一年米國議會上院ニ提出セラレタル「ディ
リンガム」法案（附屬書第五十五號）トス同案ハ議會兩院ヲ通過シタルモ讀書試驗ニ關スル規定
ヲ有スルノ理由ニヨリ一九一三年二月大統領「タフト」ノ否認スル所トナリ不成立トナレリ越エ
テ同年六月「ディリンガム」案ト類似ノ內容ヲ有スル「バーネット」法案（附屬書第五十六號）
下院ニ提出セラレ一九一五年一月ニ至リ議會ヲ通過シタルモ同案モ亦讀書試驗ニ關スル規定ヲ有
スルノ理由ニヨリ大統領「ウイルソン」ノ否認スル所トナリ再度不成立ニ終レリ然ルニ同年十二月
「バーネット」ハ右大統領ノ否認シタルト同一ノ法案ヲ議會ニ提出シ次テ下院移民委員ノ意見ヲ容
レ同案ニ修正ヲ加ヘタル一案ヲ十二月末下院ニ提出セルカ此法案ハ實ニ一九一七年米國移民法
(本章附錄參照)ノ原案ナリトス同案ハ一九一六年三月下院ヲ通過シ其後同年十二月上院ヲ通過シ
更ニ兩院協議會ノ妥協ヲ經タル上翌一九一七年一月大統領「ウイルソン」ノ署名ヲ求メラレタル